

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 7 年度 野外体験教室運営協議会		
事務局 (担当課)		相模川自然の村野外体験教室 電話 0 4 2 - 7 6 0 - 5 4 4 5 (直通)		
開催日時		令和 7 年 1 0 月 2 1 日 (火) 1 4 時 0 0 分～1 6 時 0 0 分		
開催場所		相模川自然の村野外体験教室 ミーティングルーム		
出席者	委 員	1 0 人 (別紙のとおり)		
	その他	無		
	事務局	6 人 (相模川自然の村野外体験教室所長、ふるさと自然体験教室所長、外 4 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議題		1 開会 会長副会長の選出 2 報告 (1) 令和 6 年度利用状況について ア 若あゆ、やませみの利用状況について イ 主催事業について 3 議題 (1) 令和 8 年度に向けて ア 学校利用等について イ 青少年団体利用について ウ 主催事業について 4 その他 5 閉会		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

1 開会

会長・副会長の選出

会長に福井委員、副会長に松石委員が選出された。

2 報告

(1) 令和6年度利用状況について

(事務局より資料に基づき報告)

3 議題

(1) 令和8年度に向けて

ア 学校利用等について

イ 青少年団体利用について

ウ 主催事業について

事務局より、資料に基づき説明を行った後、福井会長の進行のもと質疑応答・意見交換を行った。

(齊藤委員) 宿泊の状況を見ると1泊が多く2泊以上が少ないが、その理由は何か。

(事務局) 以前、中学校は2泊利用であったが、現在は選択制となっているため、1泊の学校が多くなっている。利用しない学校もあり、2泊の学校は1校となっている。

(会長) 多泊にはメリットがあると思うのだが。

(齊藤委員) 1日目と2日目の活動を連携させるなどの工夫ができる、また、体験活動が多数できるので、子どもたちがより成長できる良い機会になると思う。非常にもったいないと思う。

(会長) 多泊ならではのメリットがあるので、増えるといいなと思う。

(滝澤委員) 主催事業についてだが、人気があり応募者が多いので落選する方も多い。やませみの場合、冬の開催が多いので、風邪等で欠席する方が多く残念である。時期をずらして2回実施するなどの工夫はとても良いと思うが、やませみが冬しか主催事業をしない理由は何か。

(事務局) 夏には「リバーハイク」などを実施したこともあるが、最近の猛暑などの理由により実施が難しくなっている。秋は陣馬山などへの登山の実績があるが、熊などの野生動物が出没するようになったことでやはり実施が難しくなっている。また、学校の宿泊が集中する時期でもあり、実施されなくなったのではないかな。

(滝澤委員) 富山県では中学生が立山に登る取組があるそうだ。藤野町の時代には小学生が春に陣馬山に登っていた。陣馬山に登る取組を進めるのはどうか。

(会長) やませみで登山をしている学校はどのくらいあるか。

(事務局) 陣馬山登山については、やませみに宿泊する中学校は6校ほどだが、1校から2校は陣馬山に登っている。11月末に来る小学校も陣馬山登山を予定している。近くには鷹取山もあるが今回2校が登山を予定している。登山は減る傾向だが、実施が無くなることはないと考えている。

(会長) 札幌では学生のうちに1回は全員が大雪山に登るという話がある。そういう話が相模原にはあるか。

(佐藤委員) 昔は大山に登る話はあった。

(石原委員) 私は秋田の角館の出身だが、秋田駒ヶ岳には高校までに登れと言われていたが、相模原も広いので、南区で生活していると、残念ながら、登山は縁が遠い。いきなり登山は難しいし、今の子どもたちを考えると、かなりハードルが高いと思う。必要だという議論もあるだろうが、いろいろチャレンジをしながら進めるのも良いと思う。

(会長) 行政にはなかなかできないことだと思うが、登山の魅力を打合せなどで伝えて、登山のプログラムが増えると良いと思う。

(石原委員) 豊かな体験活動の推進について、その中で特別支援学校の話があったが、ネイチャーゲームの活動をしている関係で相模原中央支援学校に今回ご縁があった。楽しく、もっとやりたいと感じで、とてもハッピーだった。

(会長) 活動の中にネイチャーゲーム的なものは含まれているか。

(石原委員) 協力させてもらっていて、好評である。

(事務局) 若あゆの活動でネイチャーゲームが設定されている。シェアリングネイチャーの会に協力していただいている。

(齊藤委員) どの体験学習プログラムが人気か。また、人気があってもなくても、備品関係は傷むものだが、ウォークラリーについて、ポイントが無いところがあるが、どうなっているか教えてもらいたい。

(事務局) 若あゆの体験活動で人気があるのは野外炊事で、ほとんどの学校が1日目もしくは2日目のお昼に野外炊事をしており、カレー、豚汁、ハヤシライスが選択できる。次に多いのがキャンプファイヤー・キャンドルフアイヤーである。普段できない活動が選ばれている。先ほどのポイントが無くなっているというのはオリエンテーリングだが、地図を見ながら、若あゆの周りに設置されているポイントを探し、問題に答えるというもので、ポイントは毎月点検をしている。ポイントが無いのは欠番となっているもので、実施する際には学校に説明をして実施している。

(事務局) 若あゆの体験メニューの実施状況は、年報の9ページを参照いただきたい。

(事務局) やませみについては、21ページを参照いただきたい。やませみで人気のある活動は、野外炊事とキャンプファイヤー、キャンドルフアイヤーで、ほとんどの学校で実施している。特徴的な活動としては川遊びと追跡ハイクがある。川遊びは川の中でのハイキングや水生生物の採取というもので、追跡ハイクはオリエンテーリングに似たもので、やませみ周辺に設置したポイントをハイキングしながら探し、ポイン

ト券を探したり、クイズに答えたりするもので、自然を満喫する活動となっている。

(佐藤委員) 夜にキャンプファイヤーを実施している学校が多いようだが、活動中に国際宇宙ステーションを見たり、レモン彗星を見たりする活動はできないか。

(齊藤委員) 夜、レモン彗星などが見えるのであれば、地域の方々に開放するのはどうか。施設のアピールとして良いことだと思う。

(事務局) レモン彗星など、天体イベントの情報は収集しているが、見える時間や立地環境、施設の利用状況などにより実施が困難な場合もある。今回は断念したが、今年度は3月に皆既月食があるので、実施を検討している。

(会長) 彗星は2週間ほど観察可能である。施設開放は負担が多いと思うが、可能な範囲でお願いしたい。タイムリーな活動は事業化がしにくいので、そのようなものを天体イベントなどとしてプログラムに入れてしまうのも良いかもしれない。天体イベントなどは面白いと思うので、ぜひ何か検討していただきたい。

(佐藤委員) ハレー彗星の体験は感動したので、ぜひチェックして、夜空を見てみんなで感動する機会を作っていただきたい。

(会長) 団体活動での体験は、後に同窓会などで集まった時に話題になるので、共通の思い出になると思う。

(須藤委員) 大島キャンプ場には宿泊する方もいる、夜のイベントがあれば宿泊者にお知らせができると思う。キャンプ場の夜は暗いので、キャンプ場でもよく見えるのではないかと思うし、楽しいと思う。

(事務局) 銀河ドーム開放のチラシなどは送らせていただき、掲示をお願いしているので、引き続きご協力をお願いしたい。

(会長) 天文分野については、詳しい専門家が周りにいると思う。博物館と協力する事業もあるので、詳しい方にアドバイスをもらえば良いと思う。

(松石委員) 以前は自然観察やバードウォッチングなどの事業がかなり多くあったと思うが、最近は少なくなってきたと感じている。星を見て感激する子、鳥を見て感激する子、自然の花を見て感激する子もいる。やませみも若あゆも、自然に触れる活動が少ないので、せっかく自然の中に来ているので天体観察と同じように考慮してもらいたい。

(事務局) 学校のねらいに応じながらになってしまうが、提案すると応じてくれる学校もあるので、打合せの中で提案していきたい。

(会長) 冬場は寒さもあるので野外活動は落ち込んでくる。しかし、冬場はむしろ野外観察にはチャンスである。バードウォッチングは、夏場は鳥が見えにくいですが冬場にはよく見える。餌場を作るのも手である。また、秋口は落ち葉に注目させると面白い。実施の仕方によっては冬ならではの面白いプログラムができる。自然観察会は冬場にわざわざ行うものもある。検討をいただければと思う。

(滝澤委員) 私も佐藤委員も協力者であり、毎年、委任状をいただいている。やませみができたばかりの時に、協力者となったが、その時は大勢いた。しかし、去年あたりは、10名ぐらいとなっている。協力者は何人いるのか。

(事務局) 登録している方は多いが、人気のない活動もあるため、依頼実績のある方は少なくなっている。

(滝澤委員) 協力者のいない活動もあるようなので、協力者を推薦していった方がいいのではないかな。

(事務局) 協力者の方は、若あゆが45名と6団体、やませみは48名と3団体の方に登録をいただいている。そのうち、令和6年度については、若あゆは延べ393人、やませみは273人に活動をしていただいた。実施できていない活動については、糸取りの活動など協力者がいなくなったことで活動できないものがあるのは承知している。プログラムを残して今のスタッフで実施するのか、研修などをすればスタッフでも可能なのかなどの検討をして、整理する必要があると考えている。

(会長) 実施ができていない活動があるようなので、整理の方法はいろいろあると思うが、すぐにではなくてもいいので整理をいただければと思う。その中で、新しい活動が生まれればさらに良いと思う。

(岡部委員) お話を聞いて、ぜひ本校の生徒たちにも、星の観察をさせたいと思った。陣馬山はせっかく相模原市にあるので登らせたいとか、お花の観察や動植物の観察、若あゆ・やませみならではの魅力がたくさんあると改めて感じた。21ページの体験活動の一覧表にあるように、若あゆ・やませみではいろんなメニューを豊富に準備している。大変ありがたいことだと感じている。子どもたちのニーズに応じて、チョイスができることが何よりで、大変ありがたいことだ。

それに加えて、中学校は、反抗期が始まる時期であり、人間関係づくりが苦手になる時期なので、宿泊体験でクラスのみんなで一緒に宿泊して、体験することで、友人関係づくり、人間関係づくり、コミュニケーション能力の育成という意味でも、若あゆ・やませみはとてもいいところである。

それに関連して先ほど中学校で利用していない学校があるとのことだが、改めて理由を聞きたい。

(事務局) 利用していない中学校は現在5校となっている。学校に確認したところ、総合のテーマが平和教育などとなっているため、若あゆ・やませみの体験学習では学校のねらいを達成することが難しく、利用を断念しているとのことである。利用校を増やす取組としては、若あゆ・やませみでは「体験学習が必須」という先入観を払拭すること、自由な発想で計画ができることを周知することなどを検討中である。事例としては、今年度ある中学校が1日目の午前中は生徒たちが班に分かれて市内巡りをし、夕方に若あゆに集合してキャンプファイヤー、翌日に野外炊事をやって帰るというプログラムを実施した。このように、いろいろなプログラムが可能であることを提案、周知することが若あゆとしての課題だと考えている。

(事務局) これまでは「体験活動をぜひやってください」と提案して来た経緯があり、積極的に独自の活動についてアピールをしてこなかった。今後は、宿泊体験にある全体的な価値や効果に重点を置き、いろいろな利用方法について周知ができると、利用のない学校にアピールできるのではないかなと思う。

(岡部委員) 利用の選択肢が広がるのはありがたい。体験活動をしなければならないという縛りがなくなるとさらに利用しやすいと思う。

(会長) フリープランではないが、泊まりながら会議室だけ使って、研究・発表などの活動をじっくりやる、そういう活動も良いと思う。

(吉水委員) 鼓笛隊に所属しているが、若あゆは鼓笛の練習場所として使わせてもらっている。発表などの詰めの練習の際に、広いホールがある若あゆを使わせてもらっているので、練習を優先するため体験活動をする余裕が作れない。連盟で何かできないかとは思いますが、市内に9隊あるため日程調整が難しく、また、地域のお祭りなどに出演することもあり時間を作るのが難しい。

(事務局) 野外体験教室の重点方針の2つ目が、青少年団体や市民の利用促進となっている。青少年団体の目的が、重点方針の1である豊かな体験活動の推進とは違っていても、団体の目的に応じた活動をしていただければと考えている。

(吉水委員) 以前から利用をさせていただいているが、子どもが鼓笛隊に所属していた時は、若あゆでクリスマス会をやり七宝焼きも作った。今でも家に飾ってあるが、小さい時から使っていると、施設に詳しくなり、学校利用の際に自慢ができて子どもたちには嬉しいことのようにだ。

(事務局) 可能な範囲で利用をいただけるとありがたい。

(会長) 若あゆ・やませみは、ほかの自治体とは違って、学校教育部門が所管しているので、青少年団体が利用する場合、他市とは事情が違うところもあると思うが、体験活動を無理して行うということではなく、利用して施設のPRなどしてもらえれば十分だと思う。

(佐藤委員) この前、本を読んでいて、今の子どもはAIと共に生きなければならないと書いてあり、AIを駆使するには体験が必要とのことだ。子どものうちに体験を数多くしないとAIとともに進めないということだと思ったので、若あゆ・やませみに頑張ってもらいたい。

(依田委員) 教員からの目線では、小学校では5年生を担当すると、若あゆ・やませみに引率で来ることができる。子どもたちを見てこういう体験をさせたいとか、4月から立ち上げている学年の目標に合うものなどを検討してプログラムを組むのだが、引率の教員が経験したもの、自分が引率して楽しかったプログラムを選択しがちである。経験がない場合は先輩の意見を取り入れたりもする。若あゆ・やませみは、教員が学べる場であり、教員間の繋がりを深める機会でもあるので、そういう繋がりを深められたら良いと思う。また、時間を守るなど、子どもたちが守るべきルールがあることも宿泊体験の醍醐味だと思う。子どもだけで自主的に動けるということを感じさせてもらえる、そういう良い所だと思う。先ほどの、星とか自然の話は、引率する側が勉強して知っていれば、子どもたちに声掛けができるが、教員側がなかなか対応できていない。そういう声掛けができるようになればいいと思う。

(松石委員) 市の事業では写真を撮る機会が多いと思うが、最近は子どもの写真を撮るのはいろいろ問題となっている。先日、市内小学校の6年生の連合運動会があり、孫

の写真を撮るためにカメラを持って行ったら、本日は撮影禁止ですと言われた。学校の状況を実感した。若あゆ・やませみでは、どのようになっているのか。活動の中で、注意する点や、撮影の基準みたいなものはあるのか。

(事務局) 現状では、写真撮影は昔に比べるとかなり厳しくなっている。また、ホームページへの掲載についても、学校ではホームページにパスワードが必要な専用のページを作るなどにより、一般の方が見れないようにしているところもある。若あゆ・やませみの活動では、写真の使用について学校に確認をして利用している。

(松石委員) 使用するカメラについても制限はあるのか。

(事務局) 登録したカメラのみ使用している。記録媒体も登録することになっている。主催事業や青少年団体の写真については、撮影当日に個別に承諾を取っている。このように、情報発信という意味では、年々厳しくなっている状況である。

(松石委員) 主催事業で、参加者の大人が子どもの写真を撮るのは規制できないのではないか。

(事務局) 事業開始前にアナウンスをさせていただいている。

(松石委員) そこで撮影された写真については、若あゆ・やませみでは責任を負わないということか。

(事務局) 責任は負わないという考えである。入村式などの中で、写真撮影はできるが他の参加者が映っているものを、SNS等に掲載しないようアナウンスさせてもらっている。悪用されないように注意しなければいけないと思っている。

4 その他 特になし

5 閉会

以 上

野外体験教室運営協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	福井 智紀	麻布大学	会長	出席
2	依田 美貴子	藤野北小学校		出席
3	岡部 尚紀	大野台中学校		出席
4	齊藤 賢一	相模原市子ども会育成連絡協議会		出席
5	吉水 秋乃	相模原市少年鼓笛バンド連盟		出席
6	松石 藤夫	活動協力者	副会長	出席
7	石原 弘子	活動協力者		出席
8	須藤 久美子	大島観光協会		出席
9	笹野 茂	下大島地区ふれあい農業組合		欠席
10	滝澤 登	公募による市民		出席
11	佐藤 輝美	公募による市民		出席